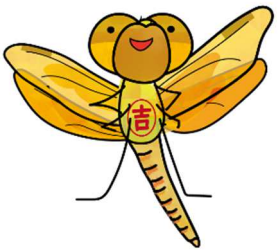


協力：風早活性化協議会

オオキチくん通信

こんにちは！この冬はあたたかかったけど、春が早くやってくるかな？オオキトンボはまだ卵ですごしているよ！

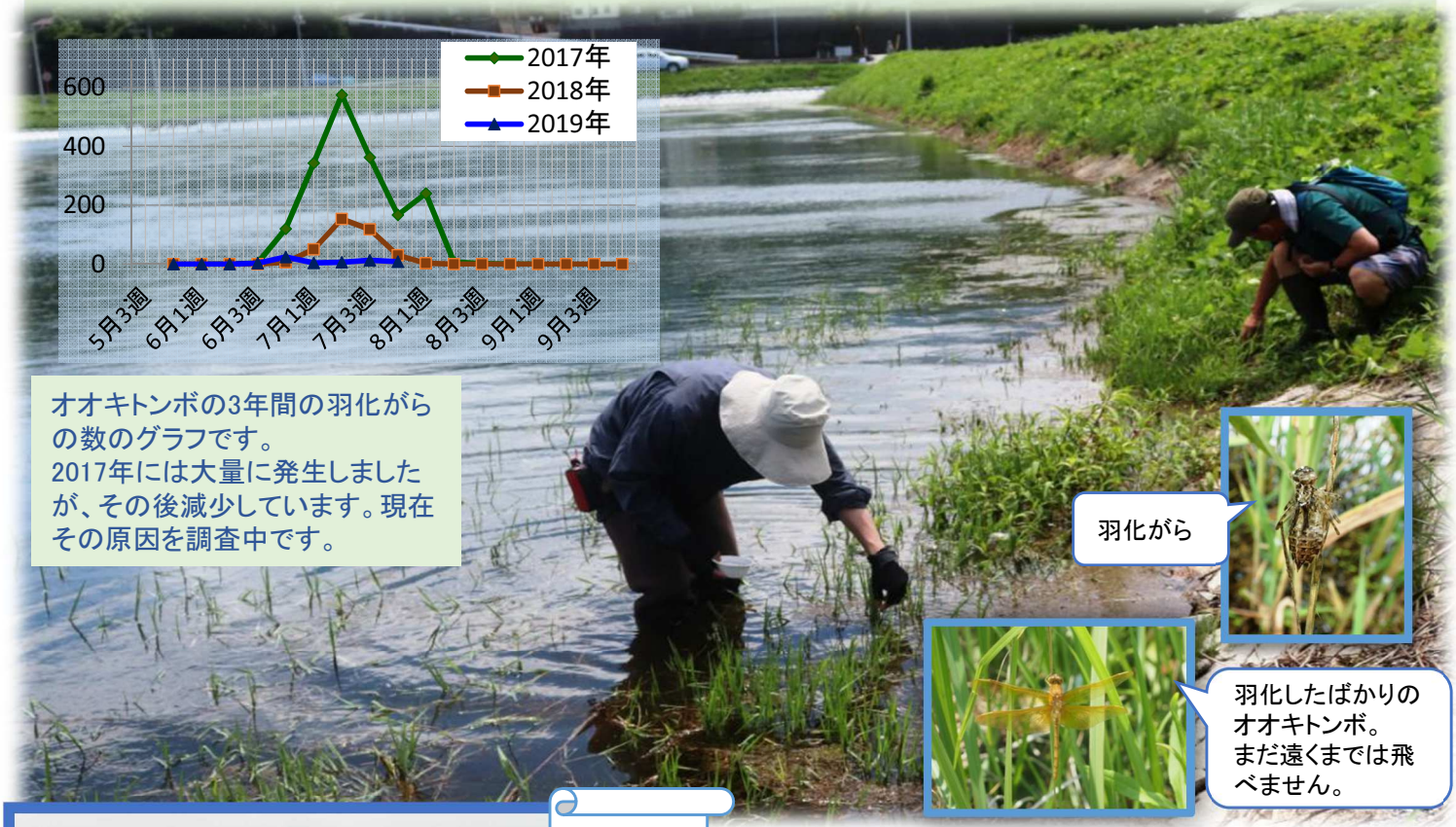
2020年3月号
発行：NPO法人森からつづく道
URL:http://morimichi.org/
★上記HPからダウンロードできます

独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて作成しています。

こんな調査をしてました！　②トンボの羽化がら調査

夏が近づくと、水中にいたオオキトンボの幼虫（ヤゴ）は、夜のあいだにヨシなどの草によじのぼって成虫（トンボ）になります。朝、草にはヤゴの羽化がら（ぬけがら）が残っています。

調査では5月初めから9月終りころまで、一週間に一回、ため池で調査区画（くかく）にある羽化がらを全部集め、トンボの種類別に数をかぞえて記録します。どの時期に、どの種類が、何びきトンボになったかがわかります。



オオキトンボの3年間の羽化がらの数のグラフです。
2017年には大量に発生しましたが、その後減少しています。現在その原因を調査中です。

羽化がら

羽化したばかりのオオキトンボ。まだ遠くまでは飛べません。

ちょうじょうはサクラのぼうしをかぶったみたい！宅並山にのぼりませんか？

粟井地区（あわいちく）にある宅並山（たくなみさん）は高さがやく200m。宅並山を育てる会がサクラをうえて手入れしてきました。ちょっと急な坂があるけど、すばらしいけしきです。

あのムシは今？！【ミズカマキリ】

こどもたちに人気のミズカマキリは、冬の間水の中でじっとしています。運がよければミカン畑などにある貯水槽（ちょすいそう）で100をこえるミズカマキリを見ることができます。ちなみにこの虫はカメムシのなかまです。

（武智礼央）

まつぼっくりコレクション ＊森のエビフライ＊

山道を歩いていると、なんと、ちっこいエビフライがころがっている？！　よ～く見ると、まつぼっくりがかじられて、しんの部分（ぶぶん）が残ったもの。まつぼっくりの先っぽがエビフライのしっぽそっくりです。だれがやったのかな？？　もくげきしてはいませんが、リスがまつかさの中にあるタネを食べたあとなんだって！

今が旬！生きもの情報

バイバイ(@^^)/~~~　風早の冬鳥(1)

ジョウビタキ

ミヤマホオジロ

シロハラ

オオタカ

ノスリ

ビンズイ

オオバン

キンクロハジロ

コガモ

ヒドリガモ

ニュウナイスズメ

風早地域には、セグロカモメ、オオセグロカモメなどのカモメ類、マガモ、ホシハジロなどのカモ類、ハイタカ、ノスリなどのタカ類、ツグミ、シロハラなどのツグミ類、ニュウナイスズメ、ミヤマガラスなど、多くの冬鳥がやって来ています。
冬ごしのために飛来(ひらい)していた冬鳥たちは、春になると北の繁殖地(はんしょくち)へ帰って行きます。これらと入れかわりに、ツバメ、ホトトギスなどの夏鳥がやってきます。ぶじに、北の繁殖地まで帰ることと、繁殖後また秋に風早にもどって来ることをいのって。それまで、バイバイ(@^^)/~~~。

風早の景色

今年は、まだ池干しが完全でないため池で、カモたちがのんびり水面をただよっています。つばき祭りが早くおとずれ、春のきざしがそこまで来ています。オオキトンボの卵たちは元気かな。

今月の植物 ★ エヒメアヤメ

3月下旬(げじゅん)、腰折山(こしおれやま)で国の天然記念物(てんねんきねんぶつ)エヒメアヤメが咲き始めます。花の時期には地元の人が交代(こうたい)で見守っています。

ちょっといっぷく

絵入りのマンホールをさがしてみよう

マンホールは道路の地下にある下水管(げすいかん)のふたです。絵入りのマンホールは、風早では数ヶ所にだけあるので見つけてください。めずらしいマンホールをさがす人をマンホラーといいます。

そうやったんかい！ 外来生物 ⑫

タガメ

日本の虫ではあるけれど・・・

生き物は、同じ種とされているものでも、すむ地域によって遺伝子(いでんし)にちがいがあります。
タガメも例外(れいがい)ではありません。
地域の個体群(こたいぐん)を守るために、日本の種といえどもインターネットなどで買った昆虫を繁殖(はんしょく)させてにがすようなことは、絶対(ぜったい)にやめましょう。